

イカットの魅力とその背景にある島の人々の生活文化を紹介

江上幹幸コレクション インドネシアの絣・イカット

～クジラと塩の織りなす布の物語～

たばこと塩の博物館（東京・墨田区）で

2023年1月21日（土）～4月9日（日）開催



たばこと塩の博物館では、2023年1月21日（土）から4月9日（日）まで、「江上幹幸コレクション インドネシアの絣・イカット クジラと塩の織りなす布の物語」を開催します。

インドネシアでは、地域ごとに色彩も意匠もさまざまな絣織り（イカット）が織られています。民族考古学を専門とする江上幹幸氏（元 沖縄国際大学教授）は、製塩や交易をテーマに長年に渡り東部インドネシアで調査してきました。本展では、江上氏の研究成果とコレクションを3部構成でご紹介します。

第1部では、江上氏の主な調査フィールドであるレンバタ島で蒐集したイカット約20点をご紹介します。レンバタ島のイカットは、伝統捕鯨で得たクジラ肉や塩、染料に必要な石灰など“海の恵み”を持つ「海の民」と、農産物や染料になる藍や茜など“山の恵み”を持つ「山の民」との交易なくしては生まれません。

第2部では、「海の民」がすむラマレラ村を中心に、レンバタ島のイカットの背景にある暮らしと交易にスポットをあてます。イカットの制作工程や、塩・石灰など交易品の生産、伝統捕鯨、それらに基づいて機能する交易システムについて、江上氏と共同研究者である小島曠太郎氏（文筆家・捕鯨文化研究家）による写真などで解説します。さらに、イカット制作に不可欠だけでなく、生活の様々な場面で重用されるヤシ利用の文化についても写真と実物資料で紹介します。

第3部では、多くの島からなる広大なインドネシアのうち、フローレス島とその東の島々やティモール島西部で江上氏が蒐集してきたイカット約30点を展示し、その多彩なデザインをお楽しみいただきます。

布としての魅力を備えたイカット約50点のほか、多くの民族資料や写真を通して、インドネシア・レンバタ島ラマレラ村の素朴で力強い生活文化についてお伝えします。

展示の詳細と作品については別紙参照

Photo.01
レンバタ島ラマレラ村のイカット

開催概要

名 称：「江上幹幸コレクション インドネシアの絣・イカット クジラと塩の織りなす布の物語」

ヨ ミ：エガミトモココレクション インドネシアノカスリ・イカット クジラトシオノオリナスヌノモノガタリ

会 期：2023年1月21日（土）～4月9日（日）

会 場：たばこと塩の博物館 2階特別展示室 主 催：たばこと塩の博物館

所在地：東京都墨田区横川 1-16-3（とうきょうスカイツリー駅から徒歩約10分）

電 話：03-3622-8801／FAX：03-3622-8807／URL <https://www.tabashio.jp>

入館料：大人・大学生：100円／満65歳以上の方（要証明書）：50円／小・中・高校生：50円

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日：月曜日
※新型コロナウイルス感染症対応により、開館時間や休館日を変更する場合があります。最新の開館情報は、公式ツイッター（@tabashio_museum）かお電話でご確認ください。

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：裊地（ほろち）由美子

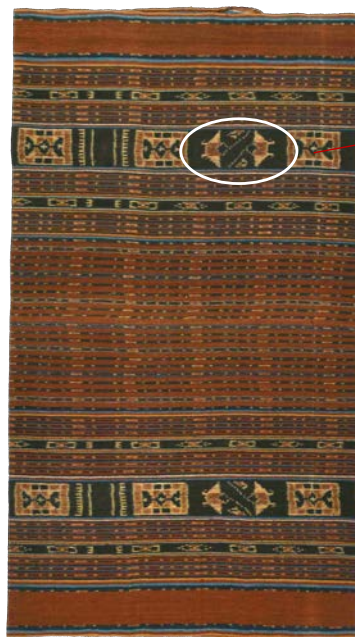
E-mail：horochi@tsmuseum.jp

第1部：レンバタ島のイカット

レンバタ島のイカットは、「海の民」と「山の民」とが物々交換によって制作に必要な材料を補い合うことで成り立っています。全工程が手作業でつくられるイカットは、日常着・祭礼着として暮らしの中に息づき、結納品（婚資）としても重要なものになっています。レンバタ島のイカットは、一見すると地味ですが、深い色合いの茜と藍で染められ、伝統的な意匠であるマンタのほか、人物の意匠などもみられます。

【レンバタ島・「海の民」のイカット】

「海の民」は他島から移住してきた人々です。男性は伝統捕鯨を担い、女性は製塩や石灰づくりなどの海辺の仕事のほか「山の民」との交易を担っています。繊維素材や染料となる植物を持たない「海の民」は、「山の民」との交易で得た綿から糸を紡ぎ、藍・茜などで染め、イカットを織ります。広いインドネシアの中でも、捕鯨や漁業を営む人々がイカットを織る例は他にみられません。



* 緋技法でマンタが表現されている。

Photo.01

腰衣(婚資)

レンバタ島ラマレラ村

1330 × 740mm

木綿／緋／藍・茜

1980年頃

* マンタの文様が入っている。



Photo.02

腰衣(婚資)

レンバタ島ラマレラ村

1975 × 690mm

木綿／緋／藍・茜

1970年頃

* 船、マンタの文様が入っている。

【レンバタ島・「山の民」のイカット】

「山の民」は主に焼畑農業を営むレンバタ島の先住民です。もともとイカットの技術を持っていたと考えられます。綿、藍、茜などイカットに必要な素材は自ら産出しますが、藍染に不可欠な石灰は「海の民」との交易でまかっています。「山の民」の中にはイカットづくりが禁止された地域があり、そこには「海の民」がつくったイカットが交易品として供給されています。イカットを身にまとして暮らすのは「海の民」と同様で、婚資用の特別なイカットを制作している地域もあります。



Photo.03

腰衣(婚資)

レンバタ島アタデイ郡

2250 × 664mm

木綿／緋／藍・茜

1970年頃

* 人物の文様が入っている。



Photo.04

腰衣(婚資)

レンバタ島アタデイ郡

2660 × 588mm

木綿／緋／藍・茜

1980年頃

第2部：レンバタ島のイカットを生み出す生活文化

ラマレラ村のイカットは、伝統捕鯨で得たクジラ肉、自らつくった塩、石灰など“海の恵み”を持つラマレラ村の「海の民」と、主食の農産物に加え染料となる藍や茜など“山の恵み”を持つ「山の民」の交易で生まれます。この章では、イカットをはじめ、塩、石灰など交易品の制作工程、さらに最も重要な交易品であるクジラ肉を得るための伝統捕鯨、それらの交易品を物々交換する「山の民」との交易について、江上氏と小島氏による写真を用いて解説します。

イカットづくり (撮影：江上幹幸)

【糸作り】



Photo.05
綿繰り機で綿の
繊維を取り出す。



Photo.06
紡錘で、糸に紡ぐ。
歩きながら紡ぐ姿
もよくみられる。

【括り】



Photo.07
染めずに文様にするとところを
ヤシの葉で括り、防染する。

【染め】



Photo.08
防染の括りをした糸の束ごと染める。

【織り】



Photo.09
括りをほどいた「絣糸」と、他の色糸を経糸にして後帯機で織る。

「イカット」とは

インドネシアで作られる絣織りの布です。「絣」は、^{たていと よこいと}経糸や緯糸の一部を紐で括って防染し、染め分けることで文様を描きます。一部を括った糸を、順序が狂わないように束にまとめたまま染色し、括りをほどいて織り上げます。「絣織物」を意味する世界共通語でもあり、その語源はインドネシア語のikat（束／括り／縛り）からきています。

【製塩】

塩は、レンバタ島ラマレラ村の人々にとってクジラ肉と並んで、物々交換で成り立つ交易の根幹を成す重要なものです。周辺地域での需要のほとんどを「海の民」の女性が作る塩でまかっています。展示では、ラマレラ村の製塩だけでなく、天日製塩や原初的な入浜法など、インドネシア東部のさまざまな伝統的製塩法も紹介します。

ラマレラ村の製塩のようす (撮影：江上幹幸)



Photo.10
海岸の岩の上にある、灰や石灰で区切られた
浅い蒸発池で海水を濃縮する。



Photo.11
蒸発池の濃縮海水を持ち帰り、鉄鍋で煮
つめて、塩の結晶を得る。



Photo.12
^{にがり}
とれた塩をカゴに移して苦汁を切る。
保管しておいた塩は、クジラの獲れ
ない時期の大切な交易品となる。

【伝統捕鯨】

ラマレラ村では全長10メートルの木造帆船「プレダン」に10～13人ほどの「海の民」の漁師が乗り、手漕ぎで漁を行います。捕獲には手投げの銚を使います。マッコウクジラの漁には様々なタブーがあり、分配法も厳密に決められています。「海の民」が人力で格闘して手に入れたクジラ肉が交易の原動力となって、「山の民」を含めた島の暮らしを支えます。イカットの材料も、その交易網の中を行き交うのです。捕鯨に使う銚用の綱も、イカットと同じように綿から紡がれ、何度も撚り合わされて太く強靱にした綿糸が使われています。



Photo.13
伝統捕鯨のようす
(撮影：江上幹幸)



Photo.14
捕鯨船プレダン 1/10模型 (船大工手製)
レンバタ島ラマレラ村
高さ1030×長さ830×奥行き330mm
木・ゲバンヤシ・木綿・軟鉄 1980年頃



Photo.15
マンタ漁に使う銚用の綱
レンバタ島ラマレラ村
この状態で直径約400mm
木綿・シロゴチョウ樹液 1960年頃

【交易】

レンバタ島ラマレラ村「海の民」の女性は、クジラ肉、塩、石灰などを持って、行商や定期市に出かけ、「山の民」との物々交換で、主食となる農産物のほか、綿や染料などイカットの材料を手に入れます。



Photo.16
クジラ肉と農産物の物々交換
(撮影：小島曠太郎)

【ヤシ利用】

インドネシアには何種類ものヤシがみられ、人々は用途ごとに使い分けて重用しています。イカット防染用の括り紐をはじめ、ヤシ酒、たばこの巻紙、たばこ容器やキンマ容器、塩づくりや石灰用のカゴ、捕鯨の際の船の帆など、ヤシは暮らしのあらゆる場面で利用されています。



イカット防染用の括り紐(部分)



Photo.17 たばこ容器
ティモール島
左から 90×50／93×50／78×45mm
ロンタルヤシの葉・紡績糸・布・ビーズ
／編み 1980年頃



Photo.18
キンマ容器
ティモール島 108×136mm
ロンタルヤシの葉・紡績糸・
ビーズ・コイン／編み 1970年頃

第3部：インドネシア東部のさまざまなイカット

江上氏は、研究テーマのひとつである「巨石記念物」調査の一環として、1980年代後半から30年以上歩き続けたインドネシア東部の村々で、少しずつイカットを蒐集してきました。「巨石記念物」を残す調査地には、必ず島ごと、地域ごとに異なる染織物の文化がありました。ここでは江上氏が民族考古学調査を通じて、レンバタ島以外で出会い、蒐集してきた魅力的なイカットの中から一部をご紹介します。

【フローレス島やその東側諸島のイカット】

村や地域によって文様や色合いに特徴があります。



Photo.19
腰衣(婚資)
フローレス島イレマンディリ郡
1700×620mm
木綿・貝／紺／藍・茜
1970年頃
*幾何学模様と点描で構成されている。



* 紺技法でウミガメが表現されている

Photo.20
腰衣(晴着)
アロール島北西アロール郡
1400×708mm
木綿／紺／藍・茜
1980年頃
* ウミガメの文様が入っている。

【ティモール島西部のイカット】

布の図柄と織り技法の豊富さに特徴があります。



Photo.21
腰衣
ティモール島ベル県
1611×584mm
木綿／紺／藍・茜
1980年頃
*人やウマ、ワニの文様が入っている。



Photo.22
腰衣
ティモール島南ビボキ郡
2116×514mm
木綿・紡績糸・ビーズ／紺・緯紋織／藍・茜
1970年頃
* 鉤の文様が入っている。



Photo.23
腰巻
ティモール島西アマヌバン郡
1804×1024mm
木綿・紡績糸／紺／藍・茜・ウコン
1980年頃
* ワニの文様が入っている。

江上幹幸コレクションについて

江上幹幸氏（元 沖縄国際大学教授）は民族考古学者として、沖縄～インドネシアをフィールドに製塩技術や巨石記念物などを研究してきました。インドネシアではフローレス島やその東側諸島、ティモール島を中心に古くから残る基層文化を調査し、その過程で出会ったイカットを蒐集するうち、1,000点に及ぶコレクションになりました。

フローレス島の東にあるレンバタ島ラマレラ村では、小島曠太郎氏（文筆家・捕鯨文化研究家）と共同で、伝統的なクジラ漁や製塩を原動力にした交易について調査し、ラマレラ村の「海の民」と「山の民」とが物々交換で行う素朴な交易が彼らの生活を支え、イカット制作においても重要な役割を担っていることを明らかにしました。

江上氏の所蔵するイカットは、作品そのものだけでなく、その背景にある生活文化まで一体で蒐集された稀有なコレクションといえます。このコレクションは「アトリエ・バレオ」と名付けた沖縄の自宅で保管・展示しています。



沖縄のアトリエ・バレオ 2020年春

返信用シート

(「インドネシアの絣・イカット」展画像希望)

たばこと塩の博物館 広報担当 裊地宛

FAX : 03-3622-8807

E-mail : horochi@tsmuseum.jp

「インドネシアの絣・イカット」展プレスリリースに掲載している画像23点を広報素材としてご提供します。必要事項をご記入のうえ、FAXかメールでご返送いただければ、ご希望の画像(jpeg)をメールでお送りします。

■広報用画像

チェック欄	画像No	キャプション・クレジット
☐	Photo.01	腰衣(婚資) レンバタ島ラマレラ村 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.02	腰衣(婚資) レンバタ島ラマレラ村 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.03	腰衣(婚資) レンバタ島アタデイ郡 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.04	腰衣(婚資) レンバタ島アタデイ郡 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.05～09	イカット作りのようす(撮影:江上幹幸)
☐	Photo.10～12	ラマレラ村の製塩のようす(撮影:江上幹幸)
☐	Photo.13	伝統捕鯨のようす(撮影:江上幹幸)
☐	Photo.14	捕鯨船プレダン 1/10模型 レンバタ島ラマレラ村(所蔵:小島曠太郎)
☐	Photo.15	マンタ漁に使う鰐用の綱(所蔵:小島曠太郎)
☐	Photo.16	クジラ肉と農産物の物々交換(撮影:小島曠太郎)
☐	Photo.17	たばこ容器 ティモール島 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.18	キンマ容器 ティモール島 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.19	腰衣(婚資) フローレス島イレマンディリ郡 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.20	腰衣(晴着) アロール島北西アロール郡 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.21	腰衣 ティモール島ベル県 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.22	腰衣 ティモール島南ビボキ郡 (江上幹幸コレクション)
☐	Photo.23	腰巻 ティモール島西アマヌバン郡 (江上幹幸コレクション)

【クレジットについて】

江上幹幸コレクションとある作品については、展覧会タイトルあるいは記事中に「江上幹幸コレクション」を入れていただければ、個々の作品画像へのクレジットは不要です。ご不明点がございましたら、お問い合わせください。

■貴媒体について

貴社名 :	ご担当者名 :
ご連絡先 TEL : FAX :	e-mail :
媒体名 :	掲載予定日 (号) :